

まちづくり市民会議による提案・意見に対する回答について

政策4：都市基盤に関する政策 ～住みたい・住んでよかったと思える快適なまちづくり～

施策4：市街地の整備

No.	検討課題	現状と問題点	課題や問題を解決するために提案する取組	対応状況	提案・意見に対する回答	回答課
1	市街化区域・市街化調整区域のあり方の見直し(新規整備の方向性)	<p>○ 市の発展・活性化のためには、市街地開発事業のみならず、市街化調整区域内での人口減少・コミュニティ衰退への歯止めにも目を向け、検討すべきである。</p> <p>市の前期基本計画(H27～H33)の人口推計(約3,000人減少)では、市街化区域内人口が微増目標の中で、調整区域の人口推計は3,500人以上減少となっており、大きな課題といえる。</p>	<p><市街化区域の拡大> 農業後継者不足や、新規就農者へのハードル(設備投資・儲からない・人を雇えない)などの実情からみて、今後は農地の縮小をベースにした、将来のまちづくりを検討すべきである。 (もちろん農業振興のための必要な農地は確保することを前提とする。)</p>	⑤現時点では実施しない	<p>市街化調整区域については、市街化を抑制する地域であり、人口減少社会の中で、積極的な市街化区域の拡大を図ることは原則不可能な状況です。</p> <p>なお、市街化区域と市街化調整区域の区分は、県が概ね5年に1度を目安に見直しを行っています。ご提言の課題等は県も含め、全国的な傾向といえるものでもあります。本市にとって、より有効的な土地利用の方策が望めないか、国・県の動きに注視し対策を講じてまいります。</p>	都市計画課
2		<p>○「鴻巣中心拠点の充実」の目標値である流動人口については定点的のため、市内全域の動きとして把握されていない。駅周辺区域が栄え、市内の他の地域が衰退しては意味がない。</p> <p>実例として、桶川市の中心市街地(中山道沿線)は、上尾道路の開通に併せて更に人の流れが少なくなった。</p> <p>○ 今後、市街化区域の拡大は予定されていないとのことだが、自然人口が減少する以上、社会人口の獲得に向けて、その拡大への積極的な取組が必要である。</p>	<p><市街化区域の拡大> 行政の総力を挙げて、人口衰退が著しい市街化調整区域の集落を維持していく一方で、市街化区域の拡大を目指すべきである。</p>	⑤現時点では実施しない	<p>現在、市では人口減少の抑制と人口減少社会への適応を見据えた持続可能な都市を目指し、市全体で各種施策を展開しているところです。</p> <p>現在の状況では、住居系での市街化区域の拡大は、原則不可能であり、より集落内の利便性維持のため公共交通と連携しながらコンパクトなまちづくり(コンパクトプラスネットワーク)に向けた取組を検討してまいります。</p>	都市計画課
3		<p>○ 鴻巣市は、市街化調整区域が全体の8割近くを占めていることから、農業区域の保全をベースにして、市の土地利用が議論されがちとなっている。しかし、実態としては、後継者不足や耕作放棄などにより、農地の維持が困難な時代に入っており、土地利用の抜本的見直しが必要なのではないか。</p>	<p><市街化区域の拡大> 上尾道路の開通は、市の都市構造を見直す大きな契機であり、このチャンスを生かして、社会人口増に繋げる必要がある。 但し、中心市街地の空洞化につながるようなことが無い様、十分に配慮すべきである。</p>	①既に実施済み	<p>上尾道路の開通は、本市にとって大きなチャンスであると考えております。</p> <p>沿道については市街化調整区域の場所も多いですが、総合振興計画や都市計画マスタープランの土地利用構想において沿道サービス地(検討)ゾーンとしており、庁内としても検討を進めています。</p> <p>本市の将来の礎となるよう、都市形成骨格道路の沿道として相応しいまちづくりを検討していきます。</p>	都市計画課
4			<p><市街化調整区域内でも、人の流れや定着を生み出すまちづくりの推進> 例えば茨城県笠間市の「クラインガルテン」のように、宿泊滞在型市民農園は、農用地区域でも実施が可能である。 集客・定住促進にも効果的であり、鴻巣市の目玉として、費用対効果などを含め、研究すべきである。(関東では、笠間、八潮、倉洲地区)</p>	⑤現時点では実施しない	<p>現在市街化調整区域内で、道の駅建設が計画されており、現在はこの計画推進を最優先で検討しています。</p> <p>一方、滞在型ではないものの市民農園が現存するので、そちらの課題を解決し、より利用しやすくすることが、新規整備よりも先決であると考えていますが、ご提言も参考に市街化調整区域のあり方を検討してまいります。</p>	産業振興課

まちづくり市民会議による提案・意見に対する回答について

政策4: 都市基盤に関する政策 ～住みたい・住んでよかったと思える快適なまちづくり～

施策4: 市街地の整備

No.	検討課題	現状と問題点	課題や問題を解決するために提案する取組	対応状況	提案・意見に対する回答	回答課
5	市全体・地区毎のまちの再整備の促進 (既存ストックの方向性)	<p>○ 既存市街地では空き家が増えてきている。また、一斉開発された地域(赤見台・生出塚など)は高齢化が顕著であり、今後再生することが課題となっている。</p> <p>○ 生産緑地は間もなく指定後30年を迎える(2022年問題)。乱開発されないよう、市全体として効果的な土地利用を早急に検討すべきである。</p>	<p><住宅リノベーションへの支援> 空き家率の高い区域や高齢化率の高い区域には、改修費用の負担軽減に関する支援や定住促進繋がる補助制度を設けるなど、積極的なバックアップ策を検討すべきである。</p>	④検討課題とする	<p>空き家等の対策につきましては、今後「空き家等対策計画」の策定を予定しております。具体的な対策の内容につきましては、「鴻巣市空き家等対策庁内検討委員会」や、今後設置予定の「空き家等対策協議会」において検討することになりますが、空き家等の発生予防対策や、管理不全な空き家等対策、空き家等の有効活用の内容が記載されてくるものと考えております。</p> <p>改修費用等の補助制度につきましても「空き家等対策計画」の策定に向けた中で検討させていただきたいと考えております。</p>	自治文化課
6		<p>○ まちの活性化の前提として、地元の機運づくりが不可欠であり、座して課題提案を待っているだけでは解決しない。</p> <p>高齢の方は自分の住んでいる所の大きな変化を容認しない面もある。一方で近年は所有者の代わりが進行しており、まちづくりのチャンスともいえる。</p>	<p><大学生向けシェアハウスの提供> 大学生を中心に、地元活動に主体的に参加する条件で、空家を低廉な価格で貸せば、愛着醸成による定住にも結び付き、一挙両得といえるのではないかと。</p>	④検討課題とする	<p>空き家等の対策につきまして、現在、不動産関係団体と空き家等の対策に関する協定を結んでおります。また、空き家等の利活用や定住促進を図るため「空きバンク」を開設していきます。</p> <p>空き家のシェアハウスへの活用等につきましても、今後策定を予定している、「空き家等対策計画」の中で検討させていただきたいと考えております。</p>	自治文化課
7		<p>○ 新たな開発整備地域には、道路の広い幅員や都市ガス・電線地中化などの導入・整備が不可欠である。また、その他のセールスポイントがないと、近年、転入者は魅力を感じないのではないかと。</p>	<p><都市計画提案制度の活用促進> 住民主体のまちづくりの誘導に効果的な制度であり、積極的に参加と対話が望めるよう、本制度のPRと検討サポートに努めていくべきである。</p>	③H32年度以降の着手を目指す	<p>本市においては都市計画提案制度はまだ定められておりませんが、地域住民からの要望に基づいて策定した地区計画等があります。</p> <p>今後、都市計画提案制度の実現に向けて、素案の作成・精査を行ってまいります。</p>	都市計画課
8		<p>○ 市街地の開発は、開発利益(例:地価)が生じないと、民間は進出してこないし、地権者も納得しない。</p> <p>○ 中山道沿線を中心に、道路幅員が狭く木造住宅が密集した地域が多数あるが、危機時に甚大な被害を及ぼす恐れがあり、防災対策などを早急に考えるべきである。</p>	<p><密集市街地への耐震化・不燃化・道路拡幅の促進> 被害想定が甚大となる地域などを対象に、防災まちづくりのための条例制定を行い、防災対策などを早急に推進すべきである。</p>	④検討課題とする	<p>地権者の権利関係とも連動するため速やかな進展は難しい側面もありますが、ご意見は重要なものと考えており、まちづくりを行う際には、災害対策を十分考慮し、県とも連携しながら地域状況分析ツールや災害想定を行う等、住民の理解を得ながら進めてまいります。</p> <p>また、検討の中で、現在、駅前の一部においてのみ指定されている防火地域、準防火地域の区域の拡大等も多角的に検討し、拡大に努めます。</p>	都市計画課
9		<p>○ 宿場町の名残を残す「鴻巣らしさ」や「路地裏」は、観光や地区の魅力として有益な面もあるが、うまく活用出来ていないのではないかと。</p>	<p><密集市街地への耐震化・不燃化・道路拡幅の促進> 「なぜ防災対策が、その地域に必要なのか」を、データを整え災害想定を周知するなど、しっかりとした裏付けを整える必要がある。</p>	④検討課題とする		
10		<p>○ 市街地再開発事業自体は、全国的にも似た施設が多数出来ているが、当市の事業も同じようなスタイルであり、差別化されず魅力が創出されてないと思われる。</p> <p>鴻巣駅A地区の事業も同じである。</p>	<p><中山道沿線の活性化> 「鴻巣らしさ」を主張できる街並みが残っているのは、唯一中山道沿線である。このため、新市街地形成だけでなく、地区計画・景観条例など、保全と活用策を積極的に検討して、魅力の創出を図るべきである。</p>	④検討課題とする	<p>地権者の権利関係とも連動するため速やかな進展は難しい側面もありますが、ご意見のとおり沿道の景観を整えることは、地域住民の郷土に対する思いを高めたり、来街者に向けた観光資源や魅力のアピールに非常に有効ですので、今後、景観保全に向けた具体策を検討します。</p> <p>また、商店街を形成している地域については空き店舗を減らす取り組みにより活性化を図り、併せて全体の街並みの保全と活用策を検討します。</p>	産業振興課 都市計画課

まちづくり市民会議による提案・意見に対する回答について

政策4: 都市基盤に関する政策 ~住みたい・住んでよかったと思える快適なまちづくり~

施策4: 市街地の整備

No.	検討課題	現状と問題点	課題や問題を解決するために提案する取組	対応状況	提案・意見に対する回答	回答課
11			<p><若い世代のまちづくりへの参加> 商業・農業・コミュニティを含め、これから将来を担う若い世代が積極的に関わり、課題を共有しないと、まちの活力が生まれない。 積極的に参加と対話が望めるよう、知恵を絞り、対策してほしい。</p>	①既に実施済み	<p>平成30年度に、鴻巣市活性化へ向けた市民活動に関心・興味のある方を対象に「鴻巣活性化懇話会」と称し、講演会及びディスカッションを行いました。 ここでは鴻巣の将来を担う若い世代が中心となった方々に参加を頂いており、今後も引き続きこのような若い世代に興味をもってもらえるような事業を実施し、積極的な参加を求める工夫を全庁的に実施してまいります。</p>	産業振興課 自治文化課 都市計画課

まちづくり市民会議による提案・意見に対する回答について

政策4: 都市基盤に関する政策 ~住みたい・住んでよかったと思える快適なまちづくり~

施策4: 市街地の整備

No.	検討課題	現状と問題点	課題や問題を解決するために提案する取組	対応状況	提案・意見に対する回答	回答課
12	鴻巣駅東口エリアの更なる利便性の向上(鴻巣中心拠点の充実)	○「エルミこうのす」と「アネックスビル」を結ぶ歩道橋がわかりづらいため、「アネックス」の利用促進が果たされないと思う。 ○ 鴻巣駅東口には、エレベーターが遠い場所にあり、下りエスカレーターもないため、利便性に難がある。	<アネックスビルへのルートの明瞭化> アネックスビルにも魅力的な施設が多いので、人が流れるように、わかりやすい案内図などを整備すべきである。	⑥その他	エルミこうのす(ショッピングモール)ビル及びエルミこうのすアネックスビルは民間を含めた区分所有ビルであります、それぞれの管理組合に提案し、改善に結び付けたいと考えます。	市街地整備課
13		○ 駅通り地区に整備される新規公園については、まちの顔にもなる公園であり、十分な検討が必要である。 ○ 駅前保育ステーションが検討されているようだが、今の計画では非効率である。	<鴻巣駅東口へのエレベーター or 下りエスカレーターの整備> 利便性、バリアフリーの面からも、設置が必要である。	④検討課題とする	現在、エルミこうのすのエレベーターについて、管理者と利用協定を締結し利用させて頂いていますが、駅舎に直結するエレベーターの設置要望も多く頂いています。スペースや建築上の問題もあり、どのような設置方法が可能か、今後の検討課題とさせて頂きます。	都市計画課
14		○ 駅前は交通結節の機能が多いほど、利用が増えるものであるが、まだまだ改善の余地がある。 ○ 毎日、多くの免許センター利用者(H29年度1日平均:2,172人)があるが、現状ではそのまま帰るだけである。このため、うまく地域活性化などと結びつけていない。	<新規公園のネーミングや景観に配慮したトイレ・防災倉庫の整備> 新規公園は立地的にも「市の顔」ともいえる場所であり、それに相応しいネーミングをつけてほしい	②H31年度に着手予定	平成31年度に公園整備工事が完了する予定の中、同年度内には、公募により公園名称を決定する予定ですので、公募案にご期待ください。	市街地整備課
15			<新規公園のネーミングや景観に配慮したトイレ・防災倉庫の整備> 公園内のトイレ・防災倉庫などは、必要な機能であると理解するが、景観にも十分配慮して整備するべきである。	②H31年度に着手予定	平成30年度に公園の基本及び実施設計を行う中、設計の段階で関係部署と連携を図り且つ、専門コンサルタントの意見等を参考に駅前にふさわしい景観を配慮した公園整備に努めていますので、整備内容にご期待ください。	市街地整備課
16			<中央公民館エリア再編構想との連携> 当該エリアは、周辺環境からみて、子ども達が集う空間としてふさわしいと考えられる。エリア内の各施設における取組を相互に連携させ、活性化に努められたい。	④検討課題とする	ご提言を踏まえ、駅前と中央公民館エリアと有機的な繋がりが望める取組を模索してまいります。	総合政策課
17			<駅前保育所の整備> 駅前ステーションから、各保育所に移動させるのは、時間的にも労力的にも非効率である。各保育所の必要度を見直し、スリム化させて、駅前に再整備するほうが将来にも有益である。 そしてピックアップ方式は郊外の保育所を中心に行うべきである。その際、先進事例を参考に、民間進出方を積極的に検討されたい。	⑤現時点では実施しない	保育ステーションにつきましては、利用者ニーズや需要予測の検討を踏まえ、31年4月開設に向け準備を進めており、本市としては効果の高い事業との認識でおりますが、効果検証と改善策の検討はしっかり果たしてまいります。 一方、保育施設の整備については、民間事業者における事業展開、また、現在の利用状況並びに今後の利用見込みなど、民間活力の導入の観点から、あるいは長期的な視点に立った保育の需給バランスに配慮していく観点からも、慎重に検討してまいりたいと考えています。	保育課

まちづくり市民会議による提案・意見に対する回答について

政策4: 都市基盤に関する政策 ~住みたい・住んでよかったと思える快適なまちづくり~

施策4: 市街地の整備

No.	検討課題	現状と問題点	課題や問題を解決するために提案する取組	対応状況	提案・意見に対する回答	回答課
18			<p><バス路線の増設・増発> 大宮から熊谷の間におけるハブ拠点として、民間と連携して東西交通のバス路線の設置や、首都圏直結バスの導入を積極的に検討すべきである。</p>	⑤現時点では実施しない	<p>広域交通の連携は重要な課題の一つと認識しておりますが、新たなバス路線等の設置は、民間路線運行事業者との共存や市の財政負担を考慮しますと、現時点では実施は難しいと考えます。 まずはコミュニティバス「フラワー号」の効果的、効率的な運行を目指し、交通環境の充実に努めてまいります。</p>	総合政策課 道路課
19			<p><「おしゃれ」をキーワードにして、免許センター客の取り込み促進> 若い免許センター客の取り込みには、沿道にカフェなどのおしゃれなスペースの創出が必要である。 例えば「スターバックスコーヒー」の誘致など、市としてこれまで以上に積極的な取組・支援を行う必要がある。</p>	④検討課題とする	<p>ご提言を踏まえ、まちづくり・産業部局が一体となり、地元団体とも連携の下、民間参入の可能性を模索してまいります。</p>	総合政策課

まちづくり市民会議による提案・意見に対する回答について

政策4：都市基盤に関する政策 ～住みたい・住んでよかったと思える快適なまちづくり～

施策4：市街地の整備

No.	検討課題	現状と問題点	課題や問題を解決するために提案する取組	対応状況	提案・意見に対する回答	回答課
20	市街地再開発事業への理解促進	第一種市街地再開発事業は、数年間にわたり、多額の予算(H30当初予算:約11億円)が必要な事業である。このため、市民側にとって、市の財源に支障がないことや、市税を投資するメリットなどについて、わかりやすく説明してほしい。	<広報・HPを通じた正しい理解の促進> 市街地再開発事業を実施する意義とメリットや全体としての税金投入額、将来の財政負担などを、広報誌などを通じて、市民のためにわかりやすい形で公開すべきである。	②H31年度に着手予定	現在、ホームページにて再開発事業の目的などは掲載していますが、ご提言を踏まえ、より市民の皆さまに事業効果を伝えられるよう掲載内容の充実に努めます。 なお、現在施行中の再開発事業(駅通り地区)は、平成31年度に完了予定のため、事業完了後(額確定後)には事業効果の分析等の公表を予定しています。	市街地整備課
21	北新宿地区・広田地区の賑わい向上	○ 北新宿地区は行田市境、広田地区は行田市や加須市に近い位置にある。このような立地性を考慮して、行政区域の垣根にとらわれない、関係市間での広域的な連携の検討が必要ではないか。 ○ 北新宿地区では、基盤整備が今後まだまだ進行する予定である。このため、既存住民と新規住民が融和し、将来に渡って住み良いまちになる取組・枠組の検討が必要である。	<若い世代を中心とした、将来に向けてのまちづくりの活発な議論> 両地区として特性にあった「●●をしたい人」を取り込む方策を、整備している現段階から積極的に検討する必要がある。そして、将来に渡って、まちの使われ方を議論する場を設けるべきである。その際には、特に将来を担う若い世代の意見を取り入れて、コンセプトを確立することが不可欠である。	④検討課題とする	ご提言を踏まえ、多くの世代の意見が取り入れられるように地域の自治会等と協力を図り、地区の色を出せるような枠組の検討を進めてまいります。	市街地整備課
22		○ 広田地区では工業団地に隣接することからアパートの建設が多く進められている。このことは、今後のまちのあり様を含め、地区の特徴・特色ともいえるので、まちづくりに活かすべきである。また、広田地区の人口定着には、鴻巣駅への交通手段の確保が不可欠である。	<広田地区の特徴を生かしたコンセプトの設定と実践> 広田地区は「職住近接型」のまちである。このような住民の構成を意識した中で、活性化策を検討するなど、地区の魅力とコンセプトを意識したサポートづくりを進めるべきである。	①既に実施済み	現在、広田地区のコンセプトとしては、換地計画・地区計画により、1画地当たりの面積を大きくし、多世代にわたり居住できるような街づくりを進めているところであり、定着動向からも一定の成果が出ているものと認識しています。 一方で、ご提言内容に当てはまる新規住民もいますので、区画整理事業終了後を見据えた「地区のあり方」を、地域の方と議論できる枠組は、検討してまいりたいと考えます。	市街地整備課
23			<バス路線の増発> 北新宿地区では行田駅、広田地区では加須駅も近いことから、他市の駅へのコミュニティバスの乗入や、近隣のコミュニティバスの乗入による、広域交通の連携を図りたい。 (※ 本提言は、既成市街地へも同様の対応が図られれば、なお望ましい。)	⑤現時点では実施しない	広域交通の連携は重要な課題の一つと認識しておりますが、民間路線運行事業者との共存やコミュニティバス運行補助金の増加などを考慮しますと、現時点では実施は難しいと考えます。 今後は、より効果的、効率的な運行とするため、H31年4月から全体的な運行の見直しを予定しており、デマンド交通を含めた一体的な公共交通の充実に努めることで、土地区画整理事業の推進・人口定着にも波及させたいと考えております。	道路課 市街地整備課
24	施策全体に対する意見		<活性化のための目玉の創出> 鴻巣市のネームバリューや観光としての目玉が少ないと思う。今後まちづくりの活性化のためには、「花火大会」「花のまち」「人形のまち」以外で付加価値の高いものを創出する必要がある。	④検討課題とする	ご提言の内容は、今後の本市のあり方を考える上で重要な要素と捉えており、全庁的に積極的な検討を進めてまいります。	都市計画課 総合政策課

まちづくり市民会議による提案・意見に対する回答について

政策4：都市基盤に関する政策 ～住みたい・住んでよかったと思える快適なまちづくり～

施策4：市街地の整備

No.	検討課題	現状と問題点	課題や問題を解決するために提案する取組	対応状況	提案・意見に対する回答	回答課
25	施策全体に対する意見		<p><こうのす広場の活用> 市街地の賑わい向上や整備施設の周知にあたり、市内における様々な情報を積極的に発信する手段として、鴻巣市のポータルサイトである「こうのす広場」をもっと有効的に活用するべきである。</p>	①既に実施済み	<p>「こうのす広場」の存在は、官民連携した市の取組を伝えるポータルサイトとして非常に有効と考えており、現在も商工会と連携を密にし改善に取り組んでいます。今後とも積極的に充実化して果たしてまいります。</p>	総合政策課
26	施策全体に対する意見		<p><人口減少への対応> 「人口減少の抑制」を重点課題としてとらえることは必要であるが、やや過剰反応のように見える。むしろ減少しても適正な人口規模による、最適で効率的なまちづくり、市街地整備を進めることの方が大切だと考える。</p>	①既に実施済み	<p>現在の第6次総合振興計画の大きな目標としては、「人口減少の抑制」と「人口減少社会への対応(適応)」を定め、各種施策でその対策を講じているところです。 ご提言を踏まえながら、施策の検証を施し、バランスの取れた「まちづくりの最適化策」を推進してまいりますので、今後の動向に注視願えれば幸いです。</p>	都市計画課 総合政策課